

「切らずに治す先進的治療」で3000症例を達成、ガンマナイフ『パーフェクション』を新規導入

三愛病院さいたまガンマナイフセンターが記念講演を開催

0.05mmの精度でガンマ線を放射する最先端機器

「日々医療は進歩していく。その新しい医療技術を生かして患者様の機能を治していくことが医師の使命だ」。このように話すのは医療法人社団・松弘会理事長 斉陽輝久氏である。

同会は埼玉県下で唯一のガンマナイフ治療施設として2004年に「さいたまガンマナイフセンター」を同会三愛病院内に開設。

ガンマナイフはガンマ線を高い精度で脳幹や脳神経などを傷つけることなく、脳内の病巣のみに照射、メスを用いたように治療する極めて画期的な方法だ。

ガンマナイフは、切らずに治す先進的治療として広く知られており、侵襲も極めて少なく日帰り治療も行えるため、「患者様の負担をできるかぎり減らして早期に確実に腫瘍を死滅させリカバリーさせることができる」（同センター長の林基弘氏）。

さいたまガンマナイフセンターは開設7年目で3000症例を達成。また合わせて8月には最新型のガンマナイフ治療機器『パーフェクション』を導入した為、それらを記念して10月15日、同センターの主催で記念講演会及び披露パーティーを開催した。

参加者はダン・レクセル氏（エレクトラCEO・ガンマナイフメーカー）、埼玉県内の医療関係者をはじめ、参議院議員の片山さつき氏他、地元の世界から180名に上った。

記念講演会では、林氏による「さいたまガンマナイフセンター3000症例のあゆみ…あくなき先端治療の追求」と題された講演を皮切りに、おちあい脳クリニック理事長の落合卓氏が講演。「脳機能性疾患における今

後の展望」と題し、「10年待てば新しい治療が確立できる。常にアグレッシブで安全な医療の追求をすべき」と語った。

続く三愛病院脳神経外科部長の小原琢磨氏の講演「ガンマナイフ治療と外科的手術との融合」では、最先端技術のガンマナイフと従来の切除手術との組み合わせの重要性が指摘され、その後、埼玉医科大学総合医療センター脳神経外科教授の松居徹氏が特別教育講演「私が頭蓋底外科で求めてきたこと」を講演。「常にアグレッシブな精神が医師には不可欠」と強調した。

最後に特別記念講演「世界最新機種ガンマナイフ『パーフェクション』の現状と治療展望」で Hôpital de la Timone Marseille 脳神経外科主任教授のジョン・レジス氏（国際定位放射線治療学会現会長）が登壇した。

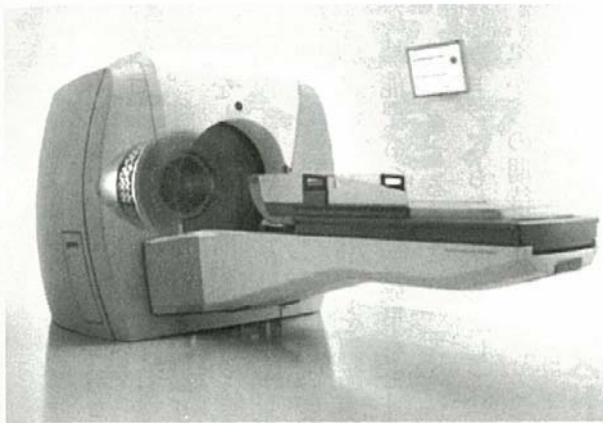
2011年8月さいたまガンマナイフセンターで導入した最新ガンマナイフ『パーフェクション』は、ガンマ線が0.05mm（髪の毛半分）という他の放射線治療と比較しても群を抜く精度で制御されている。これはフレームと頭蓋骨を特殊なピンで固定する事により精度を高める事が可能になっているもので、これにより聴神経腫瘍、頭

蓋底腫瘍、三叉神経痛などの微細構造の治療に対しても一段と精度を向上させることができた。そしてこれ等がすべてオートマチックで制御されているため、治療時間の短縮、多発腫瘍や大きな病巣の治療が可能となる」と展望を述べた。

最新の治療システムと専門医、専属スタッフを擁する「さいたまガンマナイフセンター」を拠点に、埼玉から日本、更には世界に安全かつ高品質な治療を進めていく考えだ。



講師・来賓の方々。右から2人目が斉陽理事長



最新鋭ガンマナイフ「パーフェクション」